

2014年度第1四半期決算説明会



2014年7月31日

---

## 1. 2014年度第1四半期決算実績概要

---



# 2014年度1Q実績(2014.4.1 - 2014.6.30) <対前年度実績>

## ポイント 増収増益

(+、-、+/-、▲は利益に対する影響を示す、億円)

<b>売上高</b>	+604	:	<b>+</b>	都市ガス売上増	(+453:数量差+186、単価差+266(スライド差+295、料金改定▲44等))	↑
			<b>+</b>	電力売上増	(+127:単価差+53、数量差+74)	
			<b>+</b>	海外売上増	(+39:プルート収益増、バーネット新規連結他)	↑
<b>営業費用</b>	▲404	:	<b>-</b>	都市ガス原材料費増	(▲340:数量差▲172、単価差▲168(為替▲63、油価+13、価格改定他))	↓
			<b>-</b>	電力燃料費増	(▲81:単価差▲30、数量差▲51)	↓
<b>営業利益</b>	+201	:	<b>+</b>	都市ガス利益増	(+118:ガス粗利+112(数量差+14(気温影響▲9)、単価差+98(スライド差+141、料金改定▲44等))	↑
			<b>+</b>	電力利益増	(+47:電力粗利+47(単価差+23、数量差+23))	↑
			<b>+</b>	海外利益増	(+17:プルート利益増等)	↑
<b>特別損益</b>	+49	:	<b>+</b>	固定資産(土地)売却益+54等		↑

(単位: 億円)

	2014年度1Q	2013年度1Q	増減	%
ガス販売量(百万m <sup>3</sup> , 45MJ)	3,657	3,387	+270	+8.0%
売上高	5,340	4,736	+604	+12.8%
営業費用	4,740	4,336	+404	+9.3%
営業利益	600	399	+201	+50.3%
経常利益…①	596	396	+200	+50.5%
当期純利益	447	260	+187	+71.8%
気温影響…②	▲38	▲29	▲9	—
スライドタイムラグ…③	111	▲30	+141	—
年金数理差異償却額…④	7	▲5	+12	—
補正経常利益①-(②+③+④)	516	460	+56*	+12.2%
補正当期純利益	391	302	+89	+29.5%

※+56:ガス販売量増+23(気温影響▲9控除後)、料金改定▲44、電力+47、海外+17、その他のセグメント利益他+13

(億円)

経済フレーム	為替レート(¥/\$)	原油価格(\$/bbl)	平均気温(°C)	2014年度1Q	2013年度1Q	増減	%
14年度1Q	102.17	109.52	17.8	388	803	▲415	▲51.6%
13年度1Q	98.78<+3.39>	107.75<+1.77>	17.5<+0.3>	※前年度バーネット430の剥落			

年運用実績(2014年度1Q末現在):1.62%(年間期待運用収益率2.0%)

<>内対前年度増減

2ページをご覧ください。第1四半期の業績は、売上高はガス料金原料費調整の影響および販売量増加で増収となり、5,340億円と第1四半期として過去最高を更新するとともに、営業利益・経常利益・当期純利益もそろって増益となり過去最高を更新しております。

その主な要因は後ほどご説明する通り、スライドタイムラグの改善、および工業用のガス販売が増加したことらからガス粗利が112億円増加したことにあります。

売上高604億円・12.8%の増加要因は、都市ガスの453億円増、電力事業の数量増等の127億円増などです。

このうち対前年同期では円安になったこと等によるガス料金のスライド影響は295億円となりました。なお、昨年12月に実施した料金引き下げ影響は44億円で、その内訳は小口で37億円・大口で7億円です。

一方、営業費用404億円・9.3%増は、円安影響等による都市ガス原料費が340億円、電力事業費用が80億円増加したこと等によるものです。

以上により、営業利益は201億円・50.3%増の600億円となりました。

営業外収支はオーストラリアドルの上昇等により為替差損益が15億円改善した一方、発電所の計画的な停止等により持分法投資利益が8億円減少したこと等によりほぼ前年度並みとなりました。

このため経常利益は200億円・50.5%増の596億円となりました。

当期は固定資産売却益を計上したこと等により、特別損益は49億円増加しました。資産売却先との守秘義務契約がありますので、売却の具体的な内容につきましては非開示とさせていただきます。

この結果、税引後当期純利益は187億円・71.8%増の447億円となりました。

なお、原料価格の変動に伴うスライドタイムラグは、中ほど下段に記載の通り前期より141億円改善し、111億円の営業利益寄与となりました。

# 連結ガス販売量実績

(百万m<sup>3</sup>以下四捨五入)

## 前年度実績 → 今年度実績

**+270百万m<sup>3</sup> (+8.0%)の増加**  
[うち気温影響▲8百万m<sup>3</sup>, ▲0.2%の減少]

<b>■ 家庭用</b>	<b>▲2百万m<sup>3</sup> (▲0.3%)</b>
● 気温要因	▲13百万m <sup>3</sup>
● 日数影響	▲6百万m <sup>3</sup>
● お客さま件数	+12百万m <sup>3</sup>
● その他	+5百万m <sup>3</sup>

<b>■ 業務用</b>	<b>▲5百万m<sup>3</sup> (▲0.9%)</b>
● 気温要因	+7百万m <sup>3</sup>
● 日数影響	▲6百万m <sup>3</sup>
● お客さま件数	▲0百万m <sup>3</sup>
● その他	▲6百万m <sup>3</sup>

<b>■ 工業用</b>	<b>+273百万m<sup>3</sup> (+18.4%)</b>
● 一般工業用:	+10百万m <sup>3</sup>
うち鹿島地区増	+22百万m <sup>3</sup>
● 発電専用:	+262百万m <sup>3</sup>
うち鹿島地区増	+284百万m <sup>3</sup>

<b>■ 卸</b>	<b>+5百万m<sup>3</sup> (+1.0%)</b>
● 気温要因	▲1百万m <sup>3</sup>
● その他	+6百万m <sup>3</sup>
卸供給事業者需要増等	

## 当初計画 → 今年度実績

**▲37百万m<sup>3</sup> (▲1.0%)の減少**  
[うち気温影響▲58百万m<sup>3</sup>, ▲1.6%の減少]

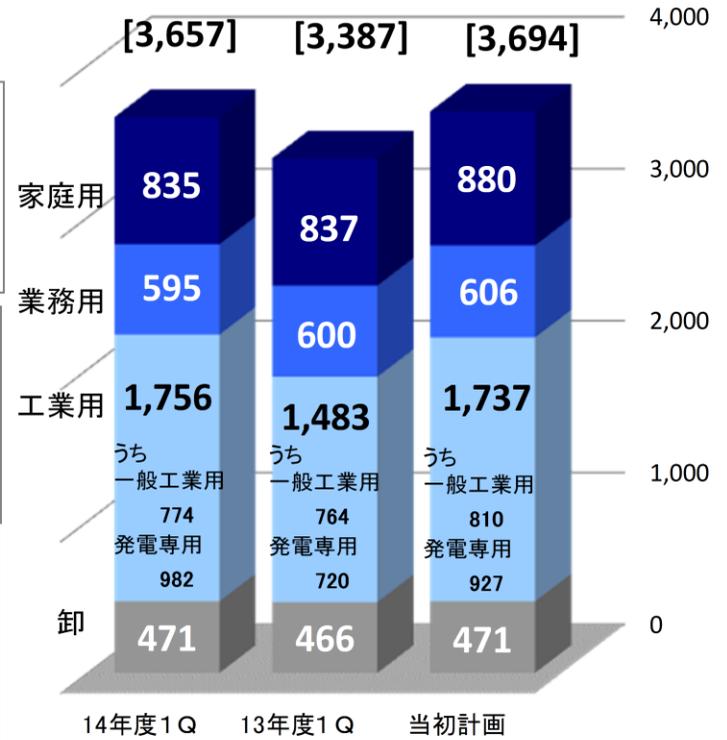
<b>■ 家庭用</b>	<b>▲45百万m<sup>3</sup> (▲5.1%)</b>
● 気温要因	▲52百万m <sup>3</sup>
● 日数影響	▲2百万m <sup>3</sup>
● お客さま件数	+2百万m <sup>3</sup>
● その他	+7百万m <sup>3</sup>

<b>■ 業務用</b>	<b>▲11百万m<sup>3</sup> (▲1.8%)</b>
● 気温要因	▲2百万m <sup>3</sup>
● 日数影響	0百万m <sup>3</sup>
● お客さま件数	▲3百万m <sup>3</sup>
● その他	▲6百万m <sup>3</sup>

<b>■ 工業用</b>	<b>+19百万m<sup>3</sup> (+1.1%)</b>
● 一般工業用:	▲36百万m <sup>3</sup>
うち鹿島地区以外減	▲39百万m <sup>3</sup>
● 発電専用:	+55百万m <sup>3</sup>
うち鹿島地区増	+55百万m <sup>3</sup>

<b>■ 卸</b>	<b>+0百万m<sup>3</sup> (+0.0%)</b>
● 気温要因	▲4百万m <sup>3</sup>
● その他	+4百万m <sup>3</sup>
卸供給事業者需要増等	

ガス販売量:



	14年度1Q	13年度1Q	増減
LNG液販売量(千t)	198	211	▲13
平均気温(°C)	17.8	17.5	+0.3

お客さま件数(万件)

	14年度1Q	13年度1Q	増減
	1,113.7	1,099.5	+14.2(+1.3%)

3ページ第1四半期の連結ガス販売量は、対前期比2億7,000万m<sup>3</sup>・8.0%増の36億5,700万m<sup>3</sup>となりました。

高気温影響でマイナス800万m<sup>3</sup>、マイナス0.2%相当があったものの、東京電力鹿島火力発電所のコンバインドサイクル化等により工業用の発電専用ガスが2億6,200万m<sup>3</sup>と大幅に増加したこと等から、全体では高い伸びを示しました。

4ページにはトーリングによるガス使用量込の販売量、および工業用ガスを発電用と一般工業用の種別ごとに、鹿島地区とその他地区で区分して表示しておりますので、ご参照ください。

2014年度1Q実績

●トーリングによるガス使用量込

百万m<sup>3</sup>, 45MJ/m<sup>3</sup>

	14年度 1Q	13年度 1Q	増減	当初計画	増減
ガス販売量 (財務会計数値)	3,657	3,387	+270 +8.0%	3,694	▲37 ▲1.0%
トーリングによる ガス自家使用量	414	324	+90 +27.8%	413	+1 +0.2%
合計	4,071	3,711	+360 +9.7%	4,107	▲36 ▲0.9%

●工業用ガス販売量内訳(単位:百万m<sup>3</sup>)

	鹿島地区	その他地区	合計
発電専用	342	640	982
(対13年度1Q)	+284(+491.2%)	▲22(▲3.3%)	+262(+36.5%)
(対当初計画)	+55(+19.4%)	▲1(▲0.0%)	+55(+6.0%)
一般工業用	52	722	774
(対13年度1Q)	+22(+70.0%)	▲11(▲1.6%)	+10(+1.3%)
(対当初計画)	+3(+5.2%)	▲39(▲5.1%)	▲36(▲4.5%)
合計	394	1,362	1,756
(対13年度1Q)	+306(+345.9%)	▲33(▲2.4%)	+273(+18.4%)
(対当初計画)	+58(+17.3%)	▲39(▲2.8%)	+19(+1.1%)

## 2014年度1Q実績 セグメント別売上高・営業損益<対前年度実績>

(単位:億円)

	売上高				セグメント利益			
	2014年度 1Q	2013年度 1Q	増減	%	2014年度 1Q	2013年度 1Q	増減	%
都市ガス	3,898	3,445	453	13.2%	553	435	118	27.2%
器具及びガス工事	403	423	▲20	▲4.7%	6	6	▲0	▲1.5%
その他エネルギー	975	794	181	22.7%	97	35	62	170.7%
(電力事業)	412	285	127	44.7%	74	27	47	167.3%
不動産	65	73	▲8	▲10.3%	16	16	0	4.1%
その他	460	405	55	13.4%	28	6	22	373.6%
(海外事業)	76	37	39	101.1%	20	3	17	518.0%
調整額	▲463	▲406	▲57	—	▲102	▲100	▲2	—
連結	5,340	4,736	604	12.8%	600	399	201	50.3%

注記: ・ セグメント別の売上高には事業間の内部取引を含んでおります。  
 ・ 「その他エネルギー」には、「エネルギーサービス」、「液化石油ガス」、「電力」、「産業ガス」、「LNG販売」を含みます。  
 ・ 「その他」には、建設事業、情報処理サービス事業、船舶事業、クレジット・リース事業、海外事業等を含みます。  
 ・ 営業損益の調整額の主なものは、各セグメントに配分していない全社費用です。  
 ・ ( )内は内数表示

5ページ6ページではセグメント別の売上高・営業利益とその要因を記載しておりますので簡単にコメントいたします。

都市ガスセグメントの118億円増益は、高気温影響による粗利減9億円があったものの、工業用の販売が大幅増加したことによる増量効果で23億円の粗利増、先ほどご説明したスライド改善で141億円の粗利増、料金改定影響44億円の粗利減が主な要因です。

電力事業は47億円の大幅増益となりました。昨年度発生した扇島パワーの定期点検が無かったことから販売電力量は約27億kWh・26%と大幅に増加しました。

経済フレームの上昇から販売単価も上昇しましたが、原料費は期首在庫影響等で上昇幅が抑えられたため、販売量増と相まって、大幅な増益となっております。

なお、第2四半期以降では在庫影響等は剥落しますので、年度通期では電力事業は対前年度比較で減益を見込んでおります。

その他エネルギーセグメントは15億円の増益となりましたが、LNG販売が主にスライド影響等により10億円の増益となったことが主因です。

海外事業は17億円の増益となりましたが、売価上昇によりプルトの利益が増益となったこと等が主な要因です。

# 2014年度1Q実績 経常利益分析 <対前年度実績>

**14年度1Q  
(実績)**  
596億円

**差異  
+200億円  
(+50.5%)**

**13年度1Q  
(実績)**  
396億円

**営業利益  
+201億円  
(+50.3%)**

**営業外損益  
0億円  
(-)**

**都市ガス  
+118億円  
(+27.2%)**

**器具・工事  
▲0億円  
(▲1.5%)**

**電力事業  
+47億円  
(+167.3%)**

**その他エネルギー  
+15億円  
(+182.9%)**

**海外事業  
+17億円  
(+518.0%)**

**不動産・その他  
+5億円  
(+31.1%)**

**連結調整等  
▲2億円**

- ガス粗利増+112億円  
(数量差+14(内気温影響▲9), 単価差+98(スライド差+141, 料金改定▲44 他))
- ・売上高 +452億円: 数量差+186, 単価差+266(スライド差+295 他)
- ・原材料費 ▲340億円: 数量差▲172, 単価差▲168(為替▲63、油価+13、価格改定他)
- 諸経費減: 修繕費減他 +4億円
- 諸給与減 +11億円
- 減価償却費増: 扇島LNGタンク取得他 ▲10億円
- 器具販売▲2億円: エネファーム販売減 他  
(個別販売台数: ▲0.1千台(2.6千台→2.5千台))
- 電力販売量 +26.2%(定期点検日数の減少他)
- ・売上高+127億円(数量差+75億円、単価差+52億円)
- ・燃料費▲80億円(数量差▲50億円、単価差▲30億円)
- LNG販売 +10億円: 販売量▲6.2%: 売上高+12億円(+6.4%)、費用▲2億円
- エネルギーサービス +1億円: オンサイトエネルギーサービスの新規稼働等
- プルート収益増、バーネット新規連結 他
- 建設+2億円
- 船舶+1億円: 輸送隻数増
- 持分法投資損益(メキシコ発電所の稼働減他) ▲8億円
- 受取配当金(14億円→10億円) ▲4億円
- 大口専用設備料収入 ▲4億円
- 為替差損益: 豪ドルの対米ドル上昇他(▲12億円→3億円) +15億円

※符号は利益の貢献に対して表示

---

## 2. 2014年度 通期見通し

---



2014年度通期見通し(2014.4.1 - 2015.3.31) <対当初計画(4月28日発表)>



通期見通しのポイント 減収増益

(+/-, +/-▲は利益に対する影響を示す, 億円)

売上高	▲100	-	都市ガス売上減	(▲77:数量差+3,単価差▲81(スライド差▲81))	スライドタイムラグ差 +47
		-	電力売上減	(▲12:数量差+3,単価差▲15)	
		-	LNG販売売上減	(▲17:数量差▲9,単価差▲8)	
営業費用	+130	+	都市ガス原材料費減	(+94 :数量差▲34,単価差+128(為替+68,油価+9他))	スライドタイムラグ差 +47
		+	電力燃料費減	(+14 :数量差▲2,単価差+16 )	
		+	LNG販売原料費減	(+18 :数量差+9,単価差+9)	
営業利益	+30	+	都市ガス利益増	(+17 :ガス粗利+16(数量差▲31(内気温影響▲38)、単価差+47(スライド差+47))	
		+	海外利益増	(+13 :プルート利益増、QCLNG他)	
特別損益	+8	+	用地売却+13、有価証券評価損▲5		(単位:億円)

	今回見通し	当初計画(4/28)	増減	%	前年度実績	増減	%
ガス販売量(百万m <sup>3</sup> , 45MJ)	15,326	15,266	+60	+0.4%	14,735	+591	+4.0%
売上高	22,880	22,980	▲100	▲0.4%	21,121	+1,759	+8.3%
営業費用	21,550	21,680	▲130	▲0.6%	19,460	+2,090	+10.7%
営業利益	1,330	1,300	+30	+2.3%	1,660	▲330	▲19.9%
経常利益...①	1,260	1,230	+30	+2.4%	1,596	▲336	▲21.1%
当期純利益	970	940	+30	+3.2%	1,084	▲114	▲10.6%
気温影響...②	▲38	0	▲38	—	▲25	▲13	—
スライドタイムラグ...③	35	▲12	+47	—	164	▲129	—
年金数理差異償却額...④	30	30	0	—	▲22	+52	—
補正経常利益...①-(②+③+④)	1,233	1,212	+21*	+1.7%	1,479	▲246	▲16.6%
補正当期純利益	951	927	+24	+2.6%	1,007	▲56	▲5.6%

※+21:ガス販売量増+7(気温影響▲38控除後)、海外+13、その他のセグメント利益増他+1

経済フレーム(通年)	為替レート(¥/\$)	原油価格(\$/bbl)	平均気温(°C)	年間期待運用収益率:2%				
				年金	運用利回※コスト控除後	割引率	期末資産(億円)	
今回見通し	104.29	109.88	16.9	2013年度	1.61%	1.5%	2,730	
前回見通し	105.00(▲0.71)	110.00(▲0.12)	16.6(+0.3)	2012年度	6.10%	1.4%	2,760	
2013年度	100.17<+4.12>	110.00<▲0.12>	17.0<▲0.1>	(単位:億円)				
				設備投資	今回見通し	当初計画	増減	%
				2014年度	2,370	2,370	0	0.0%

( )内対前回増減、<>内対前年度増減

続きまして8ページで通期の収支見通しを、今年4月にお示した前回見通しとの対比でご説明します。

まず、販売量につきましては、対前回見通しで0.4%・6,000万m<sup>3</sup>上方修正いたしました。詳しくは9ページをご覧ください。

家庭用は、高気温により第1四半期で4,500万m<sup>3</sup>前回見通しを下回りましたが、第2四半期以降は調定率が上がっていること等を勘案して500万m<sup>3</sup>上方修正したことから、年度トータルでは4,000万m<sup>3</sup>の下方修正となりました。

業務用は省エネ傾向が当初見通しより強いこと等から第1四半期で1,100万m<sup>3</sup>前回見通しを下回り、更に第2四半期以降もこの傾向が継続すると判断し、年度トータルでは2,000万m<sup>3</sup>下方修正しました。

工業用ですが、まず発電専用については第1四半期で東電鹿島火力発電所向け販売の上振れ等で5,500万m<sup>3</sup>前回見通しを上回っており、第2四半期以降はIPP向けの販売が前回見通しを上回ると見たことから、年度トータルで2億7,200万m<sup>3</sup>上方修正しました。

一方で一般工業用については、既に第1四半期で前回見通しを3,600万m<sup>3</sup>下回っており、第2四半期以降も当初見込んでいた景気回復によるガス販売増加が顕在化しないと見通しを変えたこと等から、年度トータルでは1億5,200万m<sup>3</sup>下方修正いたしました。

以上より、工業用トータルでは1億2,000万m<sup>3</sup>の対前回見通し上方修正となっております。

8ページにお戻りいただいて、このようにガス販売量を上方修正したものの売上高は対前回見通し100億円下方修正、一方で営業利益は30億円の上方修正となっております。

売上高の減少は、都市ガスセグメントで販売量が増加したものの、第1四半期の実績を勘案して為替が前回見通しより円高になり、原料費調整制度によって売上高が76億円減少すると見たことが主因です。

営業利益の増加は主に、都市ガスセグメントにおいてスライドタイムラグが47億円改善、工業用ガス販売量の増加で粗利が7億円増加する一方、気温影響で粗利が38億円減少することで、セグメント営業利益が17億円増加することが主要因です。

スライドタイムラグの改善は表の下段に書いてありますが、主に為替レートの見込みの変更によるもので、前は1ドル105円で見通しましたが、第1四半期の実績を勘案したうえで第2四半期以降は前回同様としたことから、今回は年度通期で104.29円と円高に修正しました。

また、海外事業でも13億円、営業利益を上方修正しております。詳しくは11ページ以降でお話します。

この結果、営業利益は対前回見通し30億円の上方修正となっております。

# 連結ガス販売量見通し

## 当初計画 → 今回見通し

**+60百万m<sup>3</sup> (+0.4%)の増加**  
 [うち気温影響▲58百万m<sup>3</sup>,▲0.4%の減少]

<b>■ 家庭用</b>	<b>▲40百万m<sup>3</sup> (▲1.2%)</b>
● 気温要因	▲52百万m <sup>3</sup>
● 日数影響	▲2百万m <sup>3</sup>
● お客さま件数	+6百万m <sup>3</sup>
● その他	+7百万m <sup>3</sup>

<b>■ 業務用</b>	<b>▲20百万m<sup>3</sup> (▲0.7%)</b>
● 気温要因	▲2百万m <sup>3</sup>
● 日数影響	▲0百万m <sup>3</sup>
● お客さま件数	+9百万m <sup>3</sup>
● その他	▲27百万m <sup>3</sup>

<b>■ 工業用</b>	<b>+120百万m<sup>3</sup> (+1.7%)</b>
● 一般工業用:	▲152百万m <sup>3</sup>
うち鹿島地区以外減	▲155百万m <sup>3</sup>
● 発電専用:	+272百万m <sup>3</sup>
うち鹿島地区以外増分	+172百万m <sup>3</sup>

<b>■ 卸</b>	<b>▲1百万m<sup>3</sup> (▲0.0%)</b>
● 気温要因	▲4百万m <sup>3</sup>
● その他	+3百万m <sup>3</sup>
卸供給事業者需要増等	

## 前年度実績 → 今回見通し

**+591百万m<sup>3</sup> (+4.0%)の増加**  
 [うち気温影響▲45百万m<sup>3</sup>,▲0.3%の減少]

<b>■ 家庭用</b>	<b>+5百万m<sup>3</sup> (+0.1%)</b>
● 気温要因	▲4百万m <sup>3</sup>
● 日数影響	▲12百万m <sup>3</sup>
● お客さま件数	+48百万m <sup>3</sup>
● その他	▲27百万m <sup>3</sup>

<b>■ 業務用</b>	<b>▲70百万m<sup>3</sup> (▲2.5%)</b>
● 気温要因	▲41百万m <sup>3</sup>
● 日数影響	▲12百万m <sup>3</sup>
● お客さま件数	0百万m <sup>3</sup>
● その他	▲17百万m <sup>3</sup>

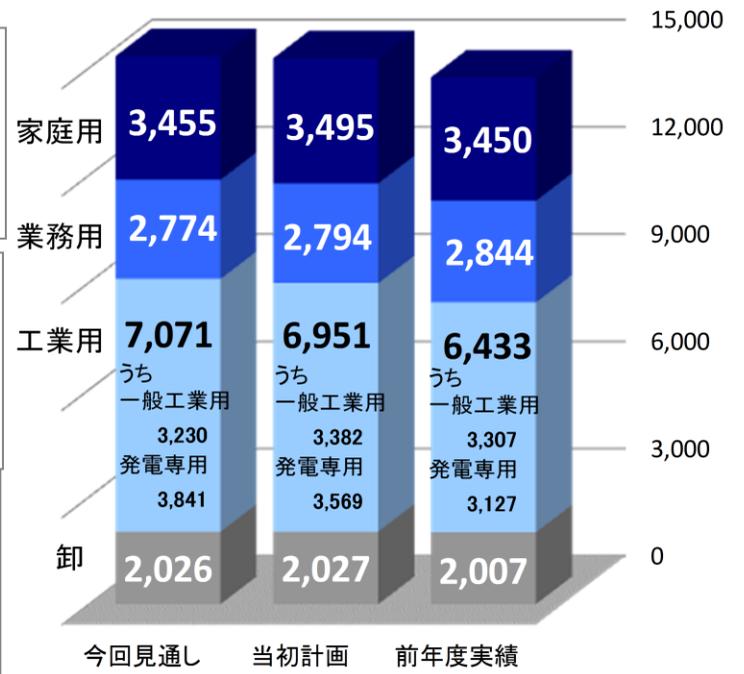
<b>■ 工業用</b>	<b>+638百万m<sup>3</sup> (+9.9%)</b>
● 一般工業用:	▲77百万m <sup>3</sup>
うち鹿島地区以外減	▲100百万m <sup>3</sup>
(前年度鉄鋼駆け込み需要の剥落)	
● 発電専用:	+714百万m <sup>3</sup>
うち鹿島地区増分	+819百万m <sup>3</sup>

<b>■ 卸</b>	<b>+19百万m<sup>3</sup> (+0.9%)</b>
● 気温要因	▲0百万m <sup>3</sup>
● その他	+19百万m <sup>3</sup>
卸供給事業者需要増等	

ガス販売量:

(百万m<sup>3</sup>以下四捨五入)

[15,326] [15,266] [14,735]



	今回見通し	当初計画	増減
LNG液販売量(千t)	955	965	▲10
平均気温(°C)	16.9	16.6	+0.3

### お客さま件数(万件)

	今回見通し	当初計画	増減
	1,123.8	1,123.7	+0.1(+0.0%)

2014年度見通し

●トーリングによるガス使用量込

百万m<sup>3</sup>, 45MJ/m<sup>3</sup>

	今回 見通し	当初計画	増減	前年度 実績	増減
ガス販売量 (財務会計数値)	15,326	15,266	+60 +0.4%	14,735	+591 +4.0%
トーリングによる ガス自家使用量	1,664	1,666	▲2 ▲0.1%	1,510	+154 +10.2%
合計	16,990	16,932	+58 +0.3%	16,245	+745 +4.6%

2020ビジョンベース      18,184      18,138      +46      17,225      +959

●工業用ガス販売量内訳 (単位:百万m<sup>3</sup>)

	鹿島地区	その他地区	合計
発電専用	1,400	2,441	3,841
(対当初計画)	+101(+7.7%)	+172(+7.6%)	+272(+7.6%)
(対前年実績)	+819(+140.9%)	▲105(▲4.1%)	+714(+22.8%)
一般工業用	208	3,022	3,230
(対当初計画)	+3(+1.2%)	▲155(▲4.9%)	▲152(▲4.5%)
(対前年実績)	+24(+12.8%)	▲100(▲3.2%)	▲77(▲2.3%)
合計	1,608	5,464	7,071
(対前回見通し)	+103(+6.8%)	+18(+0.3%)	+120(+1.7%)
(対前年実績)	+843(+110.0%)	▲204(▲3.6%)	+638(+9.9%)

10ページにはトーリングによるガス使用量込の販売量、および工業用ガスを発電用と一般工業用の種別ごとに、鹿島地区とその他地区で区分して表示しておりますので、ご参照ください。

2014年度見通し セグメント別売上高・営業損益 <対当初計画(4月28日発表)>

(単位:億円)

	売上高				セグメント利益			
	今回見通し	当初計画	増減	%	今回見通し	当初計画	増減	%
都市ガス	16,259	16,336	▲77	▲0.5%	1,288	1,271	+17	+1.3%
器具及びガス工事	2,099	2,100	▲1	▲0.0%	44	45	▲1	▲2.2%
その他エネルギー	4,146	4,170	▲24	▲0.6%	224	221	+3	+1.4%
(電力事業)	1,636	1,648	▲12	▲0.7%	159	159	▲0	▲0.3%
不動産	241	241	0	0.0%	39	38	+1	+2.6%
その他	2,093	2,102	▲9	▲0.4%	158	148	+10	+6.8%
(海外事業)	348	345	+3	+0.8%	96	83	+13	+15.4%
調整額	▲1,958	▲1,969	11	—	▲423	▲423	0	—
連結	22,880	22,980	▲100	▲0.4%	1,330	1,300	+30	+2.3%

注記: ・ セグメント別の売上高には事業間の内部取引を含んでおります。  
 ・ 「その他エネルギー」には、「エネルギーサービス」、「液化石油ガス」、「電力」、「産業ガス」、「LNG販売」を含みます。  
 ・ 「その他」には、建設事業、情報処理サービス事業、船舶事業、クレジット・リース事業、海外事業等を含みます。  
 ・ 営業損益の調整額の主なものは、各セグメントに配分していない全社費用です。  
 ・ ( )内は内数表示

11ページ12ページにはセグメントの見通しと、その主な差異理由を示しました。

都市ガスセグメントは先ほどご説明いたしましたとおり、17億円の営業利益増を見込みました。

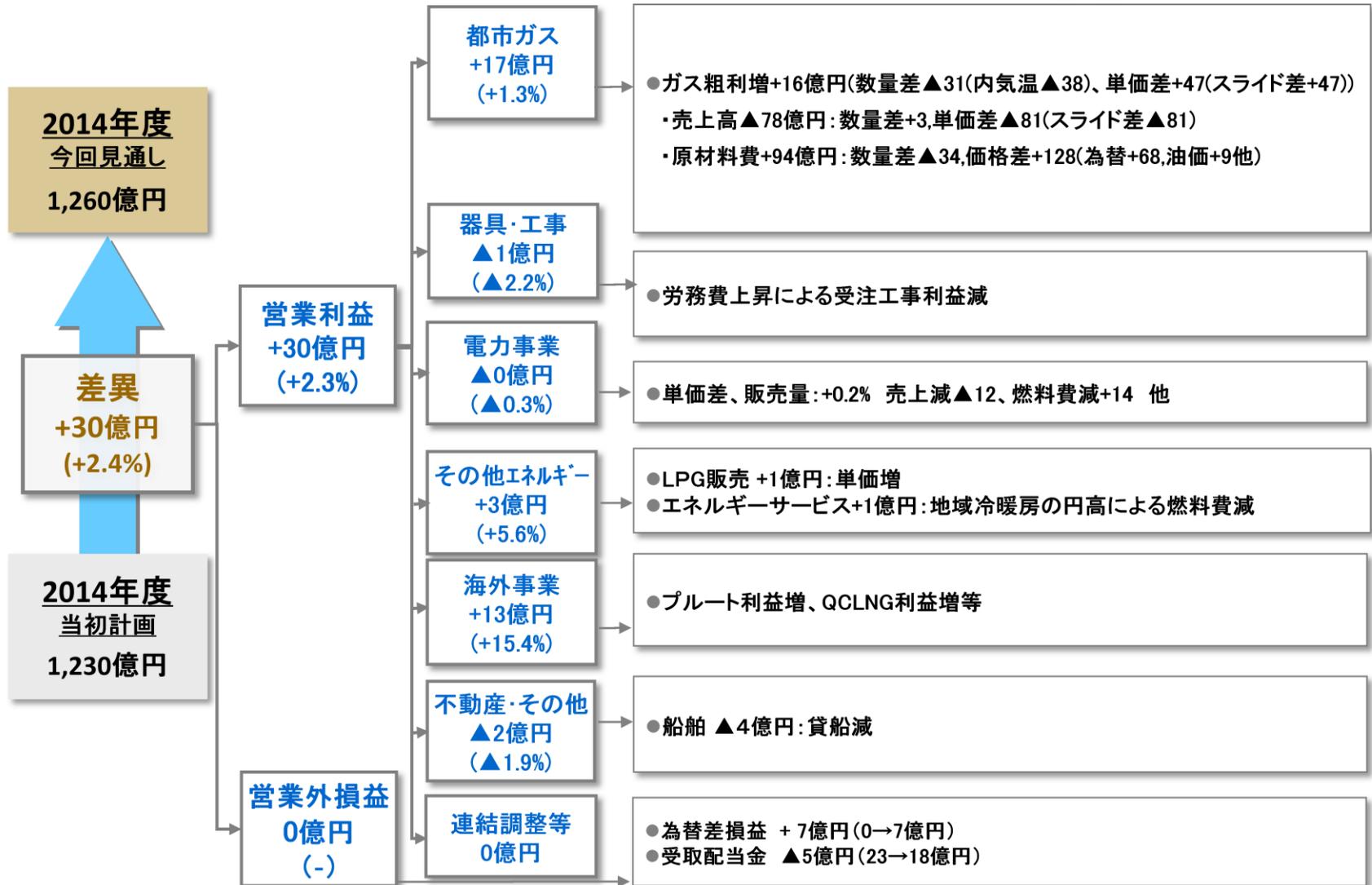
また、電力事業は当初見通しを変えておりません。

原子力発電所の再稼働につきましては見通しにくいところではありますが、西日本で数基の稼働が秋以降あるのではと想定して販売計画を立てており、年度の販売電力量は当初見通し通り約105億kWhとしております。

海外事業では13億円の上方修正となっておりますが、これはプルードで当初見通しより利益を上方修正したことなどが主要因となっております。

# 2014年度見通し 経常利益分析 <対当初計画(4月28日発表)>

(単位: 億円)



※符号は利益の貢献に対して表示

## 2014年度見通し セグメント別売上高・営業損益 <対前年度実績>

(単位:億円)

	売上高				セグメント利益			
	今回見通し	前年度実績	増減	%	今回見通し	前年度実績	増減	%
都市ガス	16,259	15,051	+1,208	+8.0%	1,288	1,526	▲238	▲15.6%
器具及びガス工事	2,099	2,217	▲118	▲5.3%	44	76	▲32	▲42.4%
その他エネルギー	4,146	3,575	+571	+15.9%	224	325	▲101	▲31.1%
(電力事業)	1,636	1,359	+277	+20.4%	159	244	▲85	▲35.0%
不動産	241	283	▲42	▲14.9%	39	57	▲18	▲31.6%
その他	2,093	1,993	+100	+5.0%	158	116	+42	+35.1%
(海外事業)	348	221	+127	+57.5%	96	28	+68	+235.0%
調整額	▲1,958	▲1,998	+40	—	▲423	▲440	+17	—
連結	22,880	21,121	+1,759	+8.3%	1,330	1,660	▲330	▲19.9%

- 注記:
- ・ セグメント別の売上高には事業間の内部取引を含んでおります。
  - ・ 「その他エネルギー」には、「エネルギーサービス」、「液化石油ガス」、「電力」、「産業ガス」、「LNG販売」を含みます。
  - ・ 「その他」には、建設事業、情報処理サービス事業、船舶事業、クレジット・リース事業、海外事業等を含みます。
  - ・ 営業損益の調整額の主なものは、各セグメントに配分していない全社費用です。
  - ・ ( )内は内数表示

# 2014年度見通し 経常利益分析 <対前年度実績>

(単位: 億円)

2014年度  
今回見通し  
1,260億円

差異  
▲336億円  
(▲21.1%)

2013年度  
実績  
1,596億円

営業利益  
▲330億円  
(▲19.9%)

営業外損益  
▲6億円  
(-)

都市ガス  
▲238億円  
(▲15.6%)

器具・工事  
▲32億円  
(▲42.4%)

電力事業  
▲85億円  
(▲35.0%)

その他エネルギー  
▲16億円  
(▲19.4%)

海外事業  
+68億円  
(+235.0%)

不動産・その他  
▲44億円  
(▲31.0%)

連結調整等  
+17億円

- ガス粗利減▲243億円(数量差+10(内気温▲13)、単価差▲253(スライド差▲129、料金改定▲155 他)
- 売上高+1,223億円: 数量差+400,単価差+823(スライド差+903,料金改定▲155 他)
- 原材料費▲1,466億円: 数量増▲390,単価差▲1,076(為替▲360,油価▲4、価格改定他)
- 固定費減等 +5億円 等

- 消費税増前駆け込み需要の反動減(売上高▲118億円)

- 販売量増+8.4%
- 売上高+277億円(物量増+114,単価増+163)、燃料費増▲382億円(数量差▲70、単価差▲312)、その他費用減+20

- LNG販売 ▲7億円: 売上高+227億円、原料費▲233億円
- エネルギーサービス▲10億円: 地域冷暖房の円安による燃料費増

- プルート利益増、QCLNG利益減、バーネット新規連結 他

- 船舶 ▲25億円: 貸船減
- 不動産▲18億円: 賃料収入減
- 建設▲3億円: 大型受注物件完了他

- 為替差損益 : +63 (▲56→7億円)
- 持分法投資損益 : ▲25 (48→23億円)
- 利息・配当収入 : ▲19(利払増▲9、受取利息・配当減▲10)
- 雑収入 : ▲19(前期環境整備費用取崩し12億円の剥落 他)

※符号は利益の貢献に対して表示

## 主要計数表(連結)

(単位: 億円)

	2014年度 今回見通し	2014年度 当初見通し	2013年度 実績
総資産 (a)	22,320	22,260	21,768
自己資本 (b)	10,360	10,300	10,117
自己資本比率 (b)/(a)	46.4%	46.3%	46.5%
有利子負債 (c)	7,710	7,730	7,138
D/E レシオ (c)/(b)	0.74	0.75	0.71
当期純利益 (d)	970	940	1,084
減価償却 (e)	1,420	1,420	1,403
営業キャッシュフロー (d) + (e)	2,390	2,360	2,488
設備投資 (Capex)	2,370	2,370	2,480
ROA: (d) / (a)	4.4%	4.3%	5.2%
ROE: (d) / (b)	9.5%	9.2%	11.2%
TEP	244	233	507
WACC	3.5%	3.6%	3.2%*
総分配性向	60%程度予定	60%程度予定	60.0%

注: 自己資本 = 純資産 - 少数株主持分  
 ROA = 純利益 / 総資産 (期首・期末平均)  
 ROE = 純利益 / 自己資本 (期首・期末平均)  
 BS関連数値は各期末時点の数値  
 営業キャッシュフロー = 純利益 + 減価償却 (長期前払費用償却含む)  
 総分配性向 = [N年度の配当 + (N+1)年度の自社株取得] / N年度の連結純利益  
 \* 発行済株式総数: 2,446,778,295株(2014年7月31日現在)

TEP(Tokyo Gas Economic Profit)について  
 TEP=NOPAT-資本コスト(投下資本×WACC)  
 WACC算定諸元(2014年度見通し)  
 ・有利子負債コスト 実績金利1.1%(税引後)  
 ・株主資本コスト率  
 ・リスクフリーレート 10年国債利回 0.8%  
 ・リスクプレミアム 5.5% β 値 0.75(※2013年度までリスクプレミアム4%)  
 ・資本金=時価総額

15ページは連結ベースの主要計数表を掲載しております。当初計画通り今年度も総分配性向は60%程度を予定しております。

---

### 3. 2014年度 上期見通し

---



2014年度上期見通し(2014.4.1 - 2014.9.30) <対当初計画(4月28日発表)>

上期見通しのポイント 減収増益

(+/-, +/-▲は利益に対する影響を示す, 億円)

<b>売上高</b>	▲100	:	-	都市ガス売上減	(▲79:数量差▲30、単価差▲49(スライド差▲49))	
			-	LNG販売売上減	(▲10:数量差他)	
			-	電力売上減	(▲6:単価差他)	スライドタイムラグ差 +58
<b>営業費用</b>	+120	:	+	都市ガス原材料費減	(+89 :数量差▲18、単価差+107(為替+67、油価+8他))	
			+	LNG販売費用減	(+13 :数量差、単価差 )	
			+	電力費用減	(+10:単価差他)	
<b>営業利益</b>	+20	:	+	都市ガス利益増	(ガス粗利+10(内数量差▲48(内気温影響▲38)、単価差+58(スライド差+58))	
			+	LNG販売利益増	(+4 :単価差他)	
			+	電力利益増	(+5 :単価差他)	

(単位:億円)

	今回見通し	当初計画(4/28)	増減	%	前年度実績	増減	%
ガス販売量(百万m <sup>3</sup> , 45MJ)	7,136	7,118	+18	+0.3%	6,673	+463	+6.9%
売上高	10,330	10,430	▲100	▲1.0%	9,335	+995	+10.7%
営業費用	9,700	9,820	▲120	▲1.2%	8,650	+1,050	+12.1%
営業利益	630	610	+20	+3.3%	685	▲55	▲8.0%
経常利益...①	620	600	+20	+3.3%	649	▲29	▲4.6%
当期純利益	530	500	+30	+6.0%	427	+103	+23.9%

気温影響...②	▲38	0	▲38	—	▲42	+4	—
スライドタイムラグ...③	105	47	+58	—	109	▲4	—
年金数理差異償却額...④	15	15	0	—	▲11	+26	—
補正経常利益...①-(②+③+④)	538	538	0*	0.0%	593	▲55	▲9.3%
補正当期純利益	473	457	+16	+3.5%	390	+83	+21.3%

※0:ガス販売量▲10(気温影響38控除後)、電力+5、その他セグメント利益他+5

(単位:億円)

経済フレーム (上期平均)	為替レート(¥/\$)	原油価格(\$/bbl)	平均気温(°C)
今回見通し	103.59	109.76	22.0
当初計画	105.00(▲1.41)	110.00(▲0.24)	21.4(+0.6)
2013年度	98.86<+4.73>	107.66<+2.10>	22.3<▲0.3>

設備投資	今回見通	当初計画	増減	%
2014年度上期	990	990	0	0.0%

( )内対前回増減、<>内対前年度増減

17ページから19ページでは参考資料として上期の見通しを記載しておりますので、ご参照ください。

# 連結ガス販売量上期見通し

(百万m<sup>3</sup>以下四捨五入)

## 当初計画 → 今回見通し

**+18百万m<sup>3</sup> (+0.3%)の増加**  
[うち気温影響▲58百万m<sup>3</sup>,▲0.8%の減少]

<b>■ 家庭用</b>	<b>▲44百万m<sup>3</sup> (▲3.3%)</b>
● 気温要因	▲52百万m <sup>3</sup>
● 日数影響	▲2百万m <sup>3</sup>
● お客さま件数	+ 2百万m <sup>3</sup>
● その他	+ 7百万m <sup>3</sup>

<b>■ 業務用</b>	<b>▲13百万m<sup>3</sup> (▲1.0%)</b>
● 気温要因	▲2百万m <sup>3</sup>
● 日数影響	0百万m <sup>3</sup>
● お客さま件数	+1百万m <sup>3</sup>
● その他	▲12百万m <sup>3</sup>

<b>■ 工業用</b>	<b>+75百万m<sup>3</sup> (+2.1%)</b>
● 一般工業用:	▲90百万m <sup>3</sup>
うち鹿島地区以外減	▲93百万m <sup>3</sup>
● 発電専用:	+165百万m <sup>3</sup>
うち鹿島地区増	+101百万m <sup>3</sup>

<b>■ 卸</b>	<b>+0百万m<sup>3</sup> (+0.0%)</b>
● 気温要因	▲4百万m <sup>3</sup>
● その他	+4百万m <sup>3</sup>
卸供給事業者需要増等	

## 前年度実績 → 今回見通し

**+463百万m<sup>3</sup> (+6.9%)の増加**  
[うち気温影響▲15百万m<sup>3</sup>,▲0.2%の減少]

<b>■ 家庭用</b>	<b>+20百万m<sup>3</sup> (+1.6%)</b>
● 気温要因	+6百万m <sup>3</sup>
● 日数影響	▲6百万m <sup>3</sup>
● お客さま件数	+19百万m <sup>3</sup>
● その他	+2百万m <sup>3</sup>

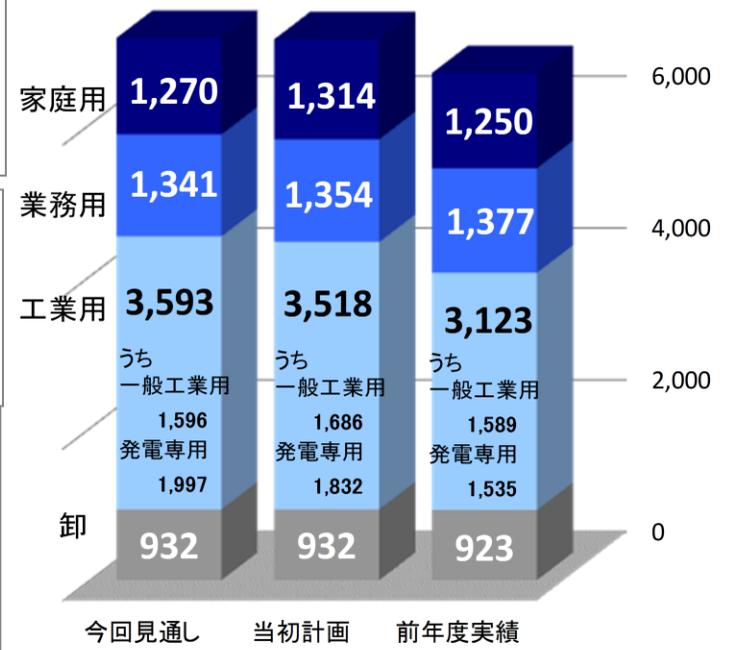
<b>■ 業務用</b>	<b>▲36百万m<sup>3</sup> (▲2.6%)</b>
● 気温要因	▲22百万m <sup>3</sup>
● 日数影響	▲6百万m <sup>3</sup>
● お客さま件数	0百万m <sup>3</sup>
● その他	▲8百万m <sup>3</sup>

<b>■ 工業用</b>	<b>+470百万m<sup>3</sup> (+15.0%)</b>
● 一般工業用:	+7百万m <sup>3</sup>
うち鹿島地区増	+30百万m <sup>3</sup>
● 発電専用:	+462百万m <sup>3</sup>
うち鹿島地区増	+517百万m <sup>3</sup>

<b>■ 卸</b>	<b>+9百万m<sup>3</sup> (+1.0%)</b>
● 気温要因	+2百万m <sup>3</sup>
● その他	+7百万m <sup>3</sup>
卸供給事業者需要増等	

ガス販売量:

[7,136] [7,118] [6,673] 8,000



	今回見通し	当初計画	増減
LNG液販売量(千t)	393	399	▲6
平均気温(°C)	22.0	21.4	+0.6

## 2014年度上期見通し

●トーリングによるガス使用量込

百万m<sup>3</sup>, 45MJ/m<sup>3</sup>

	今回 見通し	当初計画	増減	前年度 実績	増減
ガス販売量 (財務会計数値)	7,136	7,118	+18 +0.3%	6,673	+463 +6.9%
トーリングによる ガス自家使用量	845	847	▲2 ▲0.3%	743	+102 +13.6%
合計	7,981	7,965	+16 +0.2%	7,416	+565 +7.6%

●工業用ガス販売量内訳 (単位:百万m<sup>3</sup>)

	鹿島地区	その他地区	合計
発電専用	713	1,284	1,997
(対当初計画)	+101(+16.4%)	+65(+5.3%)	+165(+9.0%)
(対前年実績)	+517(+263.1%)	▲55(▲4.1%)	+462(+30.1%)
一般工業用	101	1,495	1,596
(対当初計画)	+3(+2.6%)	▲93(▲5.9%)	▲90(▲5.4%)
(対前年実績)	+30(+41.7%)	▲22(▲1.5%)	+7(+0.4%)
合計	814	2,779	3,593
(対当初計画)	+103(+14.5%)	▲28(▲1.0%)	+75(+2.1%)
(対前年実績)	+546(+204.2%)	▲77(▲2.7%)	+470(+15.0%)

---

## 4. 参考資料

---

## 原油価格JCCが \$1/bbl 上昇する場合

(単位:億円)

		収支影響時期			
		第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度計
変動時期	第2四半期	▲3	▲7	+11	+1
	第3四半期	—	▲4	▲10	▲14
	第4四半期	—	—	▲6	▲6
	通期	▲3	▲11	▲5	▲19

## 円ドルレートが ¥1/\$ 円安になる場合

(単位:億円)

		収支影響時期			
		第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度計
変動時期	第2四半期	▲11	+8	+3	0
	第3四半期	—	▲12	+14	+2
	第4四半期	—	—	▲17	▲17
	通期	▲11	▲4	0	▲15



＜見通しに関する注意事項＞

このプレゼンテーションに掲載されている東京ガスの現在の計画、見通し、戦略、その他の歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、これらは現在入手可能な情報から得られた東京ガスの経営者の判断に基づいております。

実際の業績は、さまざまな要素により、これら業績見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おき下さい。実際の業績に影響を与えうる重要な要素には、日本経済の動向、原油価格の動向、気温の変動、円ドルの為替レート変動、ならびに急速な技術革新と規制緩和の進展への東京ガスの対応等があります。

＜資料における計算方法＞

数値は切り捨て、四捨五入をしていますが、変化率は実数で計算しているため、表上での計算が一致しないことがあります。

TSE:9531